

釧路市教育委員会 令和3年第2回2月定例会会議録

- 1 日時：令和3年2月16日（火）13時30分から15時30分まで
- 2 会場：釧路市教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
(教育委員)
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
(事務局)
大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、
江縁学校教育部次長、高嶋学校教育部次長、工藤生涯学習部次長、
小野施設計画主幹、久保給食担当主幹、富田総括指導主事、
澤口生涯学習課長、中村動物園長、松本ふれあい主幹、
牧野阿寒生涯学習課長
- 4 議事録署名人 種村委員、松尾委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

議案第1号 釧路市子ども読書活動推進計画について

報告事項

- (1) 市立小中学校への留守番電話装置の設置について
- (2) 学校の現状について

【公開案件】

議案第1号 釧路市子ども読書活動推進計画について

(澤口生涯学習課長)

「釧路市子ども読書活動推進計画」の計画期間延長等については、本計画が平成28年度から令和2年度までとなっていることから、これまで令和2年8月から計3回の策定委員会及び令和2年12月の庁内検討会議において、協議検討を行ってきた。

計画内容については、指針となる国及び北海道の計画改定を見据えるとともに、本市における上位計画である「教育推進基本計画」「社会教育推進計画」を鑑み、計画期間を令和4年度までの2年間延長することが、令和3年1月28日の第3回釧路市子ども読書活動推進計画策定委員会において了承された。

この計画期間の延長に伴い、計画の取組指標も継続となることから、今後も関係団体や関

係機関等と連携を図りつつ、計画に沿った各種取組を推進してまいりたいと考えている。

今後のスケジュールについては、「釧路市子ども読書活動推進計画」の計画期間延長等について本教育委員会でご承認をいただいたうえで、その後2月定例市議会の総務文教常任委員会で報告をさせていただく予定である。

◎特に意見は、なし。

【公開案件】報告事項

(1) 市立小中学校への留守番電話装置の設置について

(江縁学校教育部次長)

市立小中学校への留守番電話装置に設置について報告する。

はじめに、設置する目的については、自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時の学校と家庭との連絡体制をより強化するためである。また、併せて教員の働き方改革への取り組みへの効果も期待するところである。

運用の開始は3月としているが、実際に運用してみて課題や問題点などを検証するため、3月は試行期間として4月からの本格運用を目指しているところである。

また、具体的な運用に関して、電話対応時間は、校長会と協議し各学校の勤務時間内に応じて対応することを基本とし、学校が決定することとしている。

それ以外の時間帯と土日祝日、学校閉庁日には、留守番電話によるメッセージが流れることとなるが、緊急時の対応については警察、救急等への連絡となる。

また、特に大規模な自然災害や新型コロナウイルスが市中に蔓延し複数の学校が閉鎖されるなど、非常事態が発生した場合には、留守番電話装置の録音・転送機能を使用し、保護者から学校への迅速な連絡体制を構築してまいりたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(松尾委員)

民間の会社では、営業時間が過ぎると繋がらなくなることが結構多い。実は、昨日たまたまそのような事があり、電話をかけると、本日の営業は終わりましたと留守番電話になったが、相手方も私と連絡が取りたいので、すぐその後に折り返しの電話がきた。その時私は電話に出られなかったので、再度折り返すとやはり留守番電話になった。そういう場合に、出ないものなのか出るものなのか、働き方改革を考えると出ないで仕事を続けた方が良いのかなと思うが、本当に急ぐ用事があって先生と話をしたと言った場合などは、先生が職員室にいるのなら出て欲しいと、保護者だったら思う。留守番電話にすると電話をかけるなど家庭から思われるのではないかと心配してしまう。

働き方改革などを考えると難しい部分はあるが、保護者へはシャットアウトではないと言

うことを、事前にしっかり周知するようにして欲しい。

(江縁学校教育部次長)

基本は各学校の勤務時間としているが、各校毎に勤務時間が違うことと、校長会との協議の中では勤務時間で切るのではなく、児童生徒が在籍している間は電話を取ることにしている。周知については、事前に保護者へ教育委員会や学校から、各校の勤務時間と留守番電話での対応時間を明示するなど、保護者から理解を得られるよう進めていく。

また、3月を試行期間としており、校長会でも課題や意見をまとめて教育委員会と協議をしたうえで、4月に向けて進めていこうと考えている。

(松尾委員)

シャットアウトではないことをしっかり伝えてやって欲しい。

もう一点、保護者から担任の先生の携帯電話へ連絡すると言った事はどうなのか。

(大山教育指導参事)

連絡先として担任のところへ行くケースもある。少し前であれば固定電話と携帯電話を持っていて、固定電話を保護者の方に教えるが携帯電話は教えないといった事が一般的な流れとなっていた。携帯番号しかもっていない先生もいるので、教えない方向で動いている。

(松尾委員)

学校からはメールで連絡が行く事も増えてきているが、担任からメールを送ることもあるのか。

(大山教育指導参事)

担任からメールを送る事は基本的に禁止している。児童生徒、保護者ともに個人的なメールは禁止されている。

(山口委員)

保護者へ留守番電話を設置する趣旨や運用ルールを正しく理解してもらう事が重要である。デリケートな部分も含んでいるので、いきなり一斉に保護者へ通知するのではなく、PTA会長などに事前に正しく理解を得ながら保護者へ広めていくなどの取り組みが必要かと思う。

働き方改革という考え方もあって留守番電話を設置するのであれば、勤務時間外も対応すると言ってしまうと保護者の方に安易な捉え方をされても困るので、基本は勤務時間内で緊急の場合はこの時間帯は対応できます、といった部分をしっかり周知した方が保護者も理解してもらえるのではないかと思う。

(江縁学校教育部次長)

校長会と協議しながら、PTAとも各学校含め協議を進めていきたい。

(松尾委員)

緊急時に、学校には連絡がつかなくて救急車や警察を呼んだ場合、学校への連絡は誰がするのか。

(江縁学校教育部次長)

色々なパターンがあるが、警察からは教育委員会に連絡が入り、教育委員会から各学校へ

連絡することになる。

(山口委員)

学校とそれぞれの学校のPTA役員との連携もあるが、教育委員会として市P連の役員へ正しく理解してもらい働きかけがあった方が、それぞれのPTAの共通理解が深まると思う。

(江縁学校教育部次長)

市P連ともしっかり進めてまいりたい。

(小出委員)

たまにしかないと思うが、下校時間までに帰ってこなくて、こどもが居ないって探すことが何年かに1回あった。友達のお母さん同士で連絡を取り合っ探したりするが、そういう時は、学校にも連絡をしていた。そうしたら、学校の方でも校区内を回るといったことがあったが、今後これで電話つながらなかつたら学校には電話できないので、警察に連絡した方が良いということなのか。そういった場合に、どのように対応したら良いのか、はっきりわかっていた方が良いと言った点と、子どもが学校で怪我をして帰って来た時、ちょっとした怪我の場合、先生から連絡がないことがある。親が子どもに聞いてもどういふ状況か分からなかつた場合に、学校に聞いて担任の先生に確認すると言った事があるが、働いている親だと勤務時間外に帰ってきてそういう事になっていても聞けない。次の日の朝に電話出来ない場合もある。保護者はちょっと不安になるのではないかなと思う。

細かい状況で、こういう時はこうしたら良いと先生と保護者での決めが必要かと思うし、今まで以上に先生と保護者は連絡を密にしていく必要が出てくるのかなと思った。

(大山教育指導参事)

経験上、放課後は、色々なことが起きて学校に電話が入って対応することが多いということで、例えば19時くらいまでは、管理職は大体残っていて対応している。

今回留守番電話を導入するにあたり、校長会でも議論になったのはその部分で、中学校で言えば、部活が終わって子どもが家着くまでの30分は学校にみんな残っていることが多い。

私たちの感覚では、その最中でおおよそおさまる事が多いので、その後の時間帯に留守番電話を使っていこうという話が校長会でも出た。

一方、校長先生の中にも働き方改革なのだから、教育委員会が勤務時間内で提案しなくて良いのかという意見もあり、校長会でなかなか意見がまとまらなかつたという経過があり、基本は働き方改革もあるので勤務時間だが、各学校で幅を持たせている。まずは、3月いっぱい様子を見させていただきたい。PTAの件も学校へ伝えさせてもらう。

(種村委員)

今まで留守番電話を入れてなかつたが、導入してほしいという意見があつたのか。また、17時以降に実際電話がかかってきた内容は絶対に出た方が良い案件が多いのか。

(大山教育指導参事)

留守番電話がどうしても必要だつた経験は個人的には無い。18時過ぎでも保護者との連絡を受けて対応した方が、次の日対応するよりも解決する確率が高い。道教委が働き方改革の関係で道立学校へ導入するのがきっかけで、釧路市も留守電を導入する流れとなっている。

(種村委員)

どうしても必要な場合はメッセージを入れることは可能なのか。

(江縁学校教育部長)

メッセージではリアルタイムに対応できないことから、まずは入れない方向で進めている。

(岡部教育長)

さまざまな意見があっても尽きないが、3月中に実際の事例や色々な意見などをまとめてもらって来月もう一度報告して欲しい。

働き方改革を進める上では、留守番電話の導入などによって、特に教頭先生の負担軽減を図っていく事は必要な事と考えている。そうする事で、ある程度これまで出来ていた対応が少しトーンダウンする事も避けられない。働き方改革と絡めて考えて行くと、やむを得ない部分もあるが、どこに着地させていくのかということだと考えている。

【公開案件】 報告事項

(2) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

1点目、来年度の学校経営について、「with コロナ」と「GIGA」の両方を意識した学校経営が必要となることから、コロナの感染予防を進めながら、どのように教育活動を充実させるのが課題となる。各学校では、充実したICT環境を活用することや感染予防が日常化するよう主体的な活動を促す工夫するなど、新しい学校の姿を模索するよう各校長へお願いした。その際、さまざまな判断が必要になるかと思うが、その時は「常に児童生徒を中心に据えて、保護者の気持ちに寄り添った判断する」ようお願いしている。

2点目は、釧路市標準学力検査について、校長会議では釧路市の大まかな傾向について説明した。

3点目は、防災小説について説明した。防災小説とは、自分が突然災害に遭った場合どのように避難するかを想定して、自分を主人公に避難の様子を小説に書くという取り組みである。子どもに災害発生時の条件を示し、その時に自分がどこで何をしているのかを設定し、「避難して全員が助かる小説にする」ことを約束事として小説を書くことで、避難経路や避難場所、避難時に必要な持ち物を想定する訓練となる。

昨年度、教育大学境教授による防災小説の模擬授業に参加させていただき、小学校高学年や中学校の防災教育の一つの手法として有効であることがわかったため、今年度、大楽毛中学校において実践をしていただいた。

2月15日のセンター講座「防災教育」で境教授を講師に「防災小説」の説明をしていただくことから、特に中学校の参加をお願いした。

4点目は、平和絵画コンクールと平和図書読書感想コンクールについて、例年通り出品をお願いした。

5点目は、釧路新聞の「読者の広場」への投稿について、NIEや心の授業での活用をお

願いました。

その他の連絡事項として、1つめはG I G Aの集合研修のこと、2つめは体罰調査のことを連絡した。特に今年度の体罰調査は、例年の倍ちかい70件の訴えがあった。体罰だけでなく不適切な指導について増えたことと、W e b回答になったことが要因だと分析している。学校には丁寧に対応することはもとより、教職員にサービスの指導の一環として「誤解を招かないように普段の言動には十分注意するよう」指導をお願いした。

最後にコロナの関係として、濃厚接触者になると10日近く学校を休まなくてはならないことから、同じ校内生活でも濃厚接触者にならないよう、マスクの着用とソーシャルディスタンスを注意するよう再度お願いした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

防災小説について、今年度大楽毛中学校にお願いして実践したということだが、子ども達の感触や感想はどうだったか。

(大山教育指導参事)

子どもたちがこれほど小説を書けるのかといった素晴らしい内容に仕上がっており、こどもの評判も良かった。報道の取材も受けている。

(山口委員)

G I G Aの研修は、指導主事が1回目の研修を全校回ったという報告は受けていたが、これからも必要に応じて、機器が整備された後の具体的な研修を進めていかなければならないと思う。先日、棋士の藤井聡太さんの師匠である杉本昌隆さんのWEB講演会を聞いた。師匠と弟子の関係で、藤井聡太さん方が将棋に関する知識や技術は師匠より上で、そういった中で弟子との関りあいの話しがあり、その話を聞いていて、タブレットを子どもたちが持つようになって、実際各学校でICTの授業を進めていく時に、先生たちのスキルを超える子どももたくさん出てくるだろうと思う。そう言う状況の中では、弟子の藤井聡太さんと師匠である杉本昌隆さんとの関わり方は学校現場でも求められてくることだと思って聞いていた。教師と子どもの関わり方、立ち位置では相手を認めつつ褒めながら育てていくといったものも必要になってくる。全然関係ない話ではあるが、私の中では今後のG I G Aの取組に生かせる内容だと聞いていたので、今後の研修の中で参考にさせていただきたい。

(松尾委員)

防災小説について、良いものがあれば読ませてもらいたい。設定が何点かあり、身近な問題なので書きやすいのだと思う。防災に限らず書くことにも良い訓練になるし、自分の感情を伝えると言った点でも良い勉強になると思う。今後国語の授業などにも取り入れて言ってもらえればと思った。